



2023年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月10日

上場会社名 日本エマージェンシーアシスタンス株式会社 上場取引所 東
コード番号 6063 URL <https://emergency.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 倉田 潔
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員企画部長兼IR室長 (氏名) 工藤 信幸 TEL 03-3811-8123
四半期報告書提出予定日 2023年11月10日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨)

1. 2023年12月期第3四半期の連結業績（2023年1月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|----------------|-------|-------|------|-------|------|-------|----------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2023年12月期第3四半期 | 2,845 | △40.0 | 168 | △72.7 | 188 | △70.9 | 130 | △70.9 |
| 2022年12月期第3四半期 | 4,745 | 61.7 | 618 | 241.4 | 648 | 241.6 | 447 | 229.8 |

(注) 包括利益 2023年12月期第3四半期 180百万円 (△65.3%) 2022年12月期第3四半期 519百万円 (232.9%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|----------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2023年12月期第3四半期 | 51.71 | — |
| 2022年12月期第3四半期 | 177.82 | 177.79 |

(注) 2023年12月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|----------------|-------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2023年12月期第3四半期 | 3,592 | 1,735 | 47.2 |
| 2022年12月期 | 3,932 | 1,605 | 40.0 |

(参考) 自己資本 2023年12月期第3四半期 1,695百万円 2022年12月期 1,573百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年12月期 | — | 0.00 | — | 18.00 | 18.00 |
| 2023年12月期 | — | 5.00 | — | — | — |
| 2023年12月期（予想） | — | — | — | — | — |

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

2023年12月期の期末の配当予想は、現時点では未定です。

3. 2023年12月期の連結業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

| 通期 | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|-------|-------|------|-------|------|-------|-----------------|-------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| | 3,600 | △42.3 | 170 | △76.3 | 190 | △74.0 | 133 | △73.4 | 52.79 |

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

これまで未定としておりました2023年12月期の連結業績予想につきましては、上記のとおり修正いたしました。詳細は、添付資料P.3「（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 ①連結業績予想の修正に関する説明」及び本日別途開示しております「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

詳細は、添付資料P.7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご参照ください。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|-------------|------------|-------------|------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 2023年12月期3Q | 2,519,600株 | 2022年12月期 | 2,519,600株 |
| ② 期末自己株式数 | 2023年12月期3Q | 430株 | 2022年12月期 | 390株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 2023年12月期3Q | 2,519,206株 | 2022年12月期3Q | 2,519,210株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 5 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 5 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 6 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 7 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 7 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 7 |
| (会計方針の変更) | 7 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 7 |
| (追加情報) | 7 |
| (セグメント情報等) | 8 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の我が国経済は、ウィズコロナにおける緩やかな景気回復基調にあるものの、混迷するウクライナ情勢や長期化する円安の影響による資源エネルギー価格の高騰、物価上昇による家計の負担増、企業のコスト増や競争力低下をもたらす懸念もあり、今後の経済に対する不確実性は高まっています。

当社グループの主要事業の業績に影響を与える出国日本人数につきましては、7月は891,615人(前年同月比220.8%増)、8月は1,201,247人(同210.9%増)、9月は1,004,700人(同214.8%増)と前年同月比で増加傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準には戻っておりません(日本政府観光局(JNTO)調べ、9月はJNTO推計値)。また、海外からの訪日外客数は、7月は2,320,694人(前年同月比1,505.2%増)、8月は2,156,900人(同1,169.5%増)、9月は2,184,300人(同957.1%増)と前年同月比で大幅に増加しており、新型コロナウイルス感染症拡大前の実績に迫る勢いを見せています(日本政府観光局(JNTO)調べ、8、9月はJNTO推計値)。

医療アシスタンス事業の売上高は、訪日外客数が新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に迫る戻りをみせ、出国日本人数は同水準には届いていないものの、足元では着実に回復の兆しが見られる中、厚生労働省から受託しております新型コロナウイルス感染症関連事業が、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が2類(危険性の高い感染症)から5類(既知の感染症)に移行されたことから、その役割を終え、5月末をもって終了したため、前年同期比で減少しました。

ライフアシスタンス事業の売上高は、既存取引先との契約見直し等により、前年同期比で減少となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,845百万円(前年同期比40.0%減)と減収となりました。また、売上原価も、2,165百万円(同42.4%減)と減少し、販売費及び一般管理費は512百万円(同40.2%増)、営業利益は168百万円(同72.7%減)、経常利益は188百万円(同70.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は130百万円(同70.9%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(医療アシスタンス事業)

(i) 海外旅行保険の付帯サービス

海外旅行保険の付帯サービスに関しましては、新型コロナウイルス感染症の影響を引き続き受けているものの、出国日本人数が徐々に増加傾向にあり、売上高は前年同期比で増加となりました。

(ii) 法人向け医療アシスタンスサービス、留学生危機管理サービス、セキュリティ・アシスタンスサービス

当社は医療アシスタンスサービスとセキュリティ・アシスタンスサービスの両サービスを企業・大学に提供しております。

法人向け医療アシスタンスサービスは、売上高が前年同期比で若干減少しましたが、セキュリティ・アシスタンスサービスは、前年同期比で増加しました。また、大学向けの留学生危機管理サービスは、留学が急速に再開し始めており、売上高が前年同期比で大幅に増加しました。

(iii) 救急救命アシスタンス事業

救急救命アシスタンス事業は、民間企業が海外の僻地で取り組む大規模建設工事現場にサイトクリニックを設置し、常駐の医師・看護師・救急救命士が病人や怪我人の対応を行う事業(EAJプロジェクトアシスト)です。

世界的な新型コロナウイルス感染症の影響をうけ、現場サイトでの新型コロナウイルス感染症への感染予防・感染対策を行う日本人医療者派遣の要請が継続しており、前年同期比で売上高は若干増加しました。

(iv) 国際医療事業(医療ツーリズム)

国際医療事業(医療ツーリズム)につきましては、まだ新型コロナウイルス感染症拡大前の水準には戻っておりませんが、徐々に回復傾向にあり、売上高は前年同期比で大幅に増加しております。今後の更なる需要拡大を見据え、国内医療機関とのネットワーク構築等の体制強化を図っております。

(v) 訪日外国人向け緊急対応型医療アシスタンス事業

日本国内で外国人が病気や怪我など不測の事態が起こった場合の医療アシスタンスサービスは、海外からの訪日外客数の急激な増加にともない、売上高が前年同期比で大幅に増加しております。今後の更なる需要拡大を見据え、ク

ライアントである海外の損害保険会社やアシスタンス会社との関係強化を図っております。

(vi) ワンストップ相談窓口事業

厚生労働省や大阪府その他の自治体より受託している外国人診療に関する相談窓口事業であり、医療機関向けの相談対応業務を順調に実施しております。今後、地方自治体や医療機関との外国人患者受入に関する連携の一層の強化を目指します。

(vii) 入国者等健康フォローアップセンター業務

厚生労働省から受託した「入国者等健康フォローアップセンター業務」につきましては、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が2類(危険性の高い感染症)から5類(既知の感染症)に移行されたことから、その役割を終え、5月末で終了したため、売上高は前年同期比で大きく減少しました。

(viii) 検疫手続確認センター業務

東京検疫所から受託した「検疫手続確認センター業務」につきましても、「入国者等健康フォローアップセンター業務」と同様の理由により、5月末で終了したため、売上高は前年同期比で減少しました。

これらの結果、医療アシスタンス事業の売上高は2,539百万円(前年同期比42.6%減)、セグメント利益は430百万円(同40.1%減)となりました。

(ライフアシスタンス事業)

ライフアシスタンス事業では、既存取引先との契約見直し等にもない、前年同期比で売上高が減少しました。その結果、ライフアシスタンス事業の売上高は306百万円(前年同期比4.5%減)、セグメント利益は67百万円(同59.9%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ340百万円減少し、3,592百万円となりました。主な増減要因としては、現金及び預金117百万円の減少、売掛金及び契約資産499百万円の減少、立替金254百万円の増加がありました。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ470百万円減少し、1,856百万円となりました。主な増減要因としては、短期借入金30百万円の減少、未払法人税等205百万円の減少、賞与引当金33百万円の増加、契約負債17百万円の増加がありました。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ130百万円増加し、1,735百万円となりました。主な増減要因としては、利益剰余金72百万円の増加、為替換算調整勘定50百万円の増加がありました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

① 連結業績予想の修正に関する説明

ウィズコロナによる経済社会活動の正常化が進む中、当社グループの主要事業である海外旅行保険付帯の医療アシスタンスサービス等既存事業の売上は、出国日本人数や訪日外客数の増加傾向にともない着実な回復基調にあります。

一方、厚生労働省から受託しておりました新型コロナウイルス感染症関連事業が5月末をもって終了したことにより、通期での官公庁関連事業の売上は大幅な減少が見込まれます。

これらを受けまして、これまで未定としておりました当連結会計年度の通期業績予想につきましては、売上高を3,600百万円(前期比42.3%減)、営業利益は170百万円(同76.3%減)、経常利益は190百万円(同74.0%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は133百万円(同73.4%減)、1株当たり当期純利益は52.79円に修正いたします。

上記業績予想及び配当予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績及び配当は様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。詳細は、本日別途開示しております「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2022年12月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,356,098 | 2,238,658 |
| 売掛金及び契約資産 | 648,322 | 148,693 |
| 仕掛品 | 39,854 | - |
| 立替金 | 472,092 | 726,553 |
| その他 | 178,158 | 254,806 |
| 貸倒引当金 | △1,077 | △946 |
| 流動資産合計 | 3,693,449 | 3,367,765 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 100,172 | 90,772 |
| 無形固定資産 | 52,919 | 48,004 |
| 投資その他の資産 | 86,300 | 85,690 |
| 固定資産合計 | 239,391 | 224,467 |
| 資産合計 | 3,932,841 | 3,592,233 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 14,585 | 12,046 |
| 短期借入金 | 1,110,000 | 1,080,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 12,000 | 11,000 |
| 未払法人税等 | 207,740 | 2,224 |
| 賞与引当金 | - | 33,427 |
| 契約負債 | 368,202 | 386,150 |
| その他 | 586,514 | 308,356 |
| 流動負債合計 | 2,299,043 | 1,833,206 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 8,000 | - |
| その他 | 19,950 | 23,043 |
| 固定負債合計 | 27,950 | 23,043 |
| 負債合計 | 2,326,993 | 1,856,249 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 312,001 | 312,001 |
| 資本剰余金 | 201,477 | 201,477 |
| 利益剰余金 | 972,431 | 1,044,763 |
| 自己株式 | △482 | △517 |
| 株主資本合計 | 1,485,426 | 1,557,723 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| 為替換算調整勘定 | 87,719 | 137,766 |
| その他の包括利益累計額合計 | 87,719 | 137,766 |
| 新株予約権 | 32,701 | 40,493 |
| 純資産合計 | 1,605,847 | 1,735,983 |
| 負債純資産合計 | 3,932,841 | 3,592,233 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 4,745,769 | 2,845,824 |
| 売上原価 | 3,761,971 | 2,165,179 |
| 売上総利益 | 983,797 | 680,644 |
| 販売費及び一般管理費 | 365,175 | 512,059 |
| 営業利益 | 618,622 | 168,585 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1,065 | 1,631 |
| 為替差益 | 32,896 | 21,634 |
| その他 | 1,115 | 1,070 |
| 営業外収益合計 | 35,077 | 24,336 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 4,540 | 3,820 |
| その他 | 358 | 539 |
| 営業外費用合計 | 4,899 | 4,360 |
| 経常利益 | 648,800 | 188,561 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 14 | - |
| 特別利益合計 | 14 | - |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 969 | 216 |
| 特別損失合計 | 969 | 216 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 647,845 | 188,344 |
| 法人税等 | 199,890 | 58,070 |
| 四半期純利益 | 447,955 | 130,273 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 447,955 | 130,273 |

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 447,955 | 130,273 |
| その他の包括利益 | | |
| 為替換算調整勘定 | 71,535 | 50,046 |
| その他の包括利益合計 | 71,535 | 50,046 |
| 四半期包括利益 | 519,491 | 180,320 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 519,491 | 180,320 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)に記載した、会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響に関する前提に重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|----------------|-----------------|-----------|--------------|--------------------------------|
| | 医療アシスタンス 事業 | ライフアシスタンス 事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 4,424,861 | 320,908 | 4,745,769 | - | 4,745,769 |
| セグメント間の内部売上 高又は振替高 | - | - | - | - | - |
| 計 | 4,424,861 | 320,908 | 4,745,769 | - | 4,745,769 |
| セグメント利益 | 719,385 | 167,392 | 886,778 | △268,156 | 618,622 |

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|----------------|-----------------|-----------|--------------|--------------------------------|
| | 医療アシスタンス 事業 | ライフアシスタンス 事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 2,539,368 | 306,455 | 2,845,824 | - | 2,845,824 |
| セグメント間の内部売上 高又は振替高 | - | - | - | - | - |
| 計 | 2,539,368 | 306,455 | 2,845,824 | - | 2,845,824 |
| セグメント利益 | 430,814 | 67,147 | 497,962 | △329,377 | 168,585 |

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。